

〈特集〉



大学の第三の使命 社会貢献

名古屋芸術大学グループ 通信

17
October
2011

Close up! NUA-ism ～進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-OG
生きることは、作るこ
とがつらこ

NUA-STUDENT
ラッキーだけじゃない
音楽学部 大学院音楽研究科 2年
加藤佑

前を向いて頑張るだけです
音楽学部 演奏学科弦管打コース 3年
岡本卓也

News/topics ニュース&トピックス

- 音楽学部**
- 音楽学部・人間発達学部合同のオープンキャンパス 2011.6.18が開催されました
 - 名古屋芸術大学ジャズ・ポップスコース主催 ケイコ・リー氏 公開講座が行われました
 - 名古屋の夏を彩るジャズの祭典 「NAGOYA GROOVIN' SUMMER 2011」が行われました
 - 名古屋芸術大学 音楽学部 演奏学科特別演奏会 「コンチェルトの夕べ」、「ピアノサマーコンサート」が行われました

- 人間発達学部**
- 2011年度 人間発達学部特別公開講座 「今後の保育・幼児教育の動向と課題」が行なわれました
 - 人間発達学部のオープンキャンパスが行なわれました

- 美術学部/デザイン学部**
- オープンキャンパス2011 未来の自分に出会う
 - 公開講座「デザインと文化2」 山崎 晃氏「デザインは楽しい」が開催されました
 - 公開講座「デザインと文化4」 永井文雄氏による「彫魚デザインと制作」が行われました
 - ニューヨークを拠点にしたアーティスト 長澤伸穂氏の公開授業が行われました
 - 小・中学生とシニア対象の芸大体験 「一日芸大生」開催 みんなが芸大生になる日。未来の自分に出会えるかも？

グループ校特集
名古屋芸術大学附属 クリエイション
「附属幼稚園として、人間発達学部実習生の受け入れを積極的に推進しています」

コラムNUA
ネットに浮かぶ雲の向こう側
音楽学部教養部会講師 大崎 竜也

**Master Artist
マスターアーティスト**
絵の向こう側
美術学科洋画コース教授 中澤 英明

**Information
インフォメーション**
■ 2011年10月～2012年3月までの
主な行事・イベントスケジュール
■ 編集後記



名古屋芸術大学グループ

<http://www.nua.ac.jp>

■名古屋芸術大学/大学院:音楽研究科 美術研究科 デザイン研究科 人間発達学研究所	学部:音楽学部 美術学部 デザイン学部 人間発達学部	■名古屋芸術大学保育・福祉専門学校 保育科 介護福祉科 ■名古屋芸術大学附属クリエイティブ幼稚園 ■滝子幼稚園
--	-------------------------------------	--



大学の第三の使命 社会貢献



大学には、教育と研究という二つの大きな果たすべき役割があります。この二つの基幹的使命が大学の本分であることに間違いはないのですが、最近では「第三の使命」として、社会貢献が求められるようになってきました。人材の育成や研究の推進は、短期的にも長期的にも社会に寄与すると考えられてきましたが、もっと直接的な社会との関わりが求められるようになってきています。

本学では、行政や企業と連携して事業を行う「産学官協同プロジェクト」、年齢に関係なく学習意欲や知的好奇心に応じ講座が受けられる「生涯学習センター」、誰でも参加、受講することのできる「公開講座」など、さまざまな形で、社会との関わりを持つような企画を推進しています。

今回はこの大学の第三の使命、社会貢献という側面から、本学の取り組みをご紹介します。



広がる社会、地域への活動

大橋 廣

広報企画部長、学院広報室長 教授

本学の長所として2つの特筆すべき点が挙げられると思います。ひとつは、海外から客員教授を招聘するなど、広く関連する研究機関と連携する教育研究交流、もう一つが社会貢献活動です。大学が教育と研究だけで成立していた時代と変わって、地域社会と密接な連携を待たなければならなくなってきています。

—北名古屋市、小牧市などと提携を結んでいますね。

平成20年に小牧市、地元である北名古屋市との連携を皮切りに、いろいろな自治体と提携を結んでいます。3年ほど前から高山市で飛騨・童話会議に参画していますが、昨年度末に高山市と正式に芸術文化振興などについて連携する協定を結びました。今年に入ってからは常滑市と協定を結び、文化事業や町おこし、産業の活性化をサポートしていくことになります。

以前から、フィールド活動や街角の全部をアートにしようというような活動はやってきましたが、もう一歩踏み込んだ形での連携を進めていけることになりました。

名古屋市とは、ナゴヤまちかどアンサンブル、NAGOYA GROOVIN' SUMMER、広小路夏まつりなど、案件ごとに個別に連携し活動していますが、これらが新聞等で報道されることにより、いろんな団体からオファーを受けるようになりました。今後も、地域との連携を深め、さらに大学周辺だけでなく東海地域全域へと広めていきたいと考えています。

—行政との連携のほかには、大学の社会への貢献というと、どんなことが挙げられますか？

貢献というと、ちょっと口幅ったいように思いますが、各学部で行われている公開講座も、学生に加え、一般の方も多数参加されています。

▶ 公開講座・産学連携事業



名古屋芸術大学創立40周年記念特別公開講座
ホンマタカシ 公開ワークショップ 講演会
2010年10月 デザイン学部



澄川喜一氏公開講座
東京スカイツリー：
アートと社会の交差点
2010年11月
美術学部



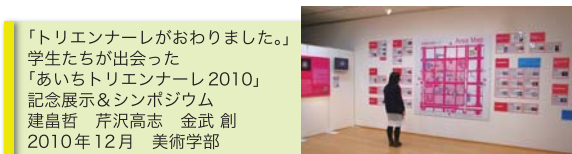
名古屋芸術大学×シヤチハタ
産学連携活動のワークショップ
2010年11月 デザイン学部



ケイコ・リー 公開講座
2011年7月 音楽学部



第38回名古屋芸術大学卒業制作展
記念講演会 篠山紀信「現代を激写する」
2011年3月



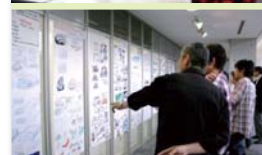
「トリエンナーレがおわりました。」
学生たちが出会った
「あいちトリエンナーレ2010」
記念展示&シンポジウム
建皇哲 芹沢高志 金武 創
2010年12月 美術学部



夏の企画展
浅葉克己 U.G.サトー 松永真「3人のポスター」展
2011年6月 デザイン学部



人間発達学部特別公開講座
「今後の保育・幼児教育の動向と課題
—子ども・子育て新システムに関する
中間とりまとめの概要から—」小田豊
2011年8月 人間発達学部



「ホンダデザインセミナー
2011」
2011年6月 デザイン学部

今年度よりケイコ・リーさん、昨年までジャズは山下洋輔さんが客員教授で、公開講座を行いました。学生もすごく楽しみにしていて、一般の方もたくさんいらっしゃいました。ドラム、ギターなど1年間を通してかなりたくさんの公開講座があります。もちろん音楽だけではなく、美術学部では展覧会やイベント、人間発達、デザイン学部でも年間かなりの公開講座が開かれています。当たり前と言えば当たり前なんですけど、芸術の世界では、本物を見る聴くということは、学生にとってたいへん刺激になり、また意義があると思います。

音楽では、定期演奏会もありますね。他の大学よりも数多く演奏会が開かれ、1年生の時から本格的な演奏会の体験ができます。名古屋市内で催され一般の人に来ていただき、地域への貢献ということにもつながっていると考えています。

—本校独自のものとしては生涯学習講座がありますが、もう長くなりますね。

今年で22回目なんです。初めの頃は、10講座もなかったと思うんですが、今では30以上の講座(36講座)があります。新しい試みも今年から始めていまして、本校の先生だけでなく、大学側でこれだと思う人に、卒業生も含めて、新たに講師として講座を持ってもらうことをやっています。これで、たくさんの講座が開かれるようになっていきます。楽しみに毎年参加してくださる方もいて、岩井義尚先生の「木彫を楽しむ」は13回目にもなるんです。木彫で展覧会もやって、生涯学習のその時間だけで終わらないものにまでなっています。ただ講座を広げるだけでなく、次なるものを考えなきゃいけない時期に来ていると考えています。

—一日芸大生も独自の取り組みですね。

そうですね。今年で4~5年目かと思いますが、じつは、ずっと昔にやっていて、一時期中断して、再開して4~5年目なんです。例えば去年の洋画科を卒業した学生なんかも、小学校6年の時に洋画の一日芸大生の講座へ参加して、それで美術へ進路を決めたというんですね。小学校や中学の頃に、本格的に美術を体験することが、大きな意味を持つと思います。募集が200人くらいに対し、700人近い数の応募がありまして、本当は全部引き受けたいんですが、結果的に抽選ということになってしまっていて申し訳ないですね。

—そのほかの取り組みとしては、どんなものがありますか？

旧加藤邸のプロジェクトも息の長いシリーズですね。美術と音楽が、日本家屋と調和してとても面白いものです。デザイン学部では、産学

生涯学習



生涯学習講座
人物(着衣)のデッサンと
油絵実技
講師名 徳田 幹成



生涯学習講座 やぎもの講座
講師名 齋木 俊秀



カラー銅版画講座
講師名 長谷川 直美



生涯学習講座 ～思い出には歌がある～
歌のチカラ / 不滅の歌謡曲
講師名 塩崎 喬

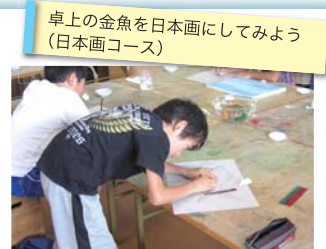
一日芸大生



モデルを写生、コラージュに挑戦
(洋画コース)



粘土板(タタラ)で自分の顔を作る
(彫塑・立体造形コース)



卓上の金魚を日本画にしてみよう
(日本画コース)



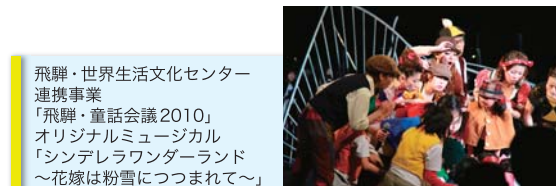
オリジナルのシルバージュエリーを
作る(メタル&ジュエリーコース)



ロクロを使って陶器づくり
(陶芸コース)

協同の活動ですね。ホンダデザインセミナーやサイトーウッドさんとの連携です。それから去年からなんですが、北名古屋市商工会、清洲市商工会と連携して、異業種交流会のビジネスマッチング事業に協力という形で参画しています。地域のためになるということ、地元の企業を知ることにもなり、就職の面やインターシップにもつながるのではないかと考えています。人間発達学部では、今の季節ですと地域のお祭り、保育所などのイベント支援なんかにかかり出て行っていますね。飾り付けを手伝って、子どもと一日遊ぶ夏祭り、ですね。よそでやったイベントを見て、是非こっちでもと声をかけていただくことが多くなってきて、いい広がりがあります。

行政との連携事業・定期演奏会他



飛騨・世界生活文化センター
連携事業
「飛騨・童話会議2010」
オリジナルミュージカル
「シンデレラワンダーランド
～花嫁は粉雪につつまれて～」



ナゴヤまちかどアンサンブル
2010年9月～ 音楽学部



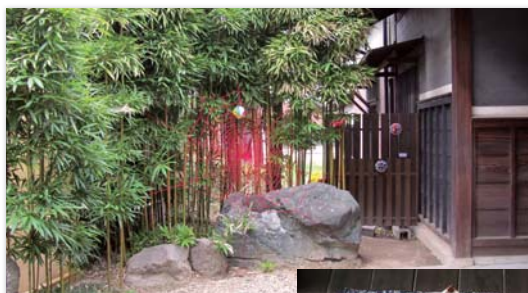
NAGOYA GROOVIN' SUMMER 2011
2011年7月 音楽学部

Entexitはentrance(入口)とexit(出口)を合わせた造語です。
大学の入試(入口)や就職・進学など(出口)の情報をお知らせするコーナーです。

名古屋芸術大学2012年度入試日程 (10月以降の試験日のもの)

学部	入試種別	出願期間	試験日	合格発表日
■ 音楽	A0入試(A)(B)	9月15日～9月22日	10月2日	10月7日
	推薦入試	10月5日～10月27日	11月5日	11月11日
	3年編入試(前期)	10月5日～10月27日	11月5日	11月11日
	3年編入試(後期)	1月10日～1月25日	2月6日	2月10日
	A日程入試	1月10日～1月25日	2月5日・6日	2月10日
	特待生入試	1月10日～1月25日	2月6日	2月10日
	B日程入試	2月15日～3月22日	3月25日	3月26日
■ 大学院 音楽研究科	A日程入試	11月4日～11月18日	12月3日	12月9日
	B日程入試	2月15日～3月22日	3月25日	3月26日
■ 研究生	研究生入試	1月27日～2月14日	2月21日	2月24日
■ 美術	推薦入試	10月13日～10月27日	11月6日	11月11日
	3年編入1期入試	10月20日～11月4日	11月12日	11月18日
	地域入試(浜松・金沢)	11月2日～11月17日	11月26日	12月2日
	社会人入試	1月20日～2月3日	2月14日	2月17日
	社会人シニア入試	1月20日～2月3日	2月14日	2月17日
	A日程第一方式(セ、プラス)	1月11日～1月25日	2月5日	2月10日
	A日程第二方式(一般)	1月11日～1月25日	2月5日	2月10日
	センター利用入試(前期)	1月23日～2月6日	センター試験のみ	
	3年編入II期入試	1月20日～2月3日	2月14日	2月17日
	B日程第一方式(セ、プラス)	2月22日～3月7日	3月16日	3月19日
	B日程第二方式(一般)	2月22日～3月7日	3月16日	3月19日
	センター利用入試(後期)	2月22日～3月7日	センター試験のみ	
■ 大学院 美術研究科	I期入試	10月20日～11月4日	11月12日	11月18日
	II期入試	1月23日～2月6日	2月15日	2月17日
■ 研修生	研修生入試	1月23日～2月6日	2月15日	2月17日
■ 研究生	研究生入試	2月17日～3月2日	3月13日	3月16日
■ デザイン	推薦入試	10月13日～10月27日	11月6日	11月11日
	3年編入1期入試	10月20日～11月4日	11月12日	11月18日
	地域入試(浜松・金沢)	11月2日～11月17日	11月26日	12月2日
	社会人入試	1月20日～2月3日	2月14日	2月17日
	A日程第一方式(セ、プラス)	1月11日～1月25日	2月5日・6日	2月10日
	A日程第二方式(一般)	1月11日～1月25日	2月5日・6日	2月10日
	センター利用入試(前期)	1月23日～2月6日	センター試験のみ	
	3年編入II期入試	1月20日～2月3日	2月14日	2月17日
	B日程第一方式(セ、プラス)	2月22日～3月7日	3月16日	3月19日
	B日程第二方式(一般)	2月22日～3月7日	3月16日	3月19日
	センター利用入試(後期)	2月22日～3月7日	センター試験のみ	
	■ 大学院 デザイン研究科	I期入試	10月20日～11月4日	11月12日
II期入試		1月23日～2月6日	2月15日	2月17日
■ 研修生	研修生入試	1月23日～2月6日	2月15日	2月17日
■ 研究生	研究生入試	2月17日～3月2日	3月13日	3月16日
■ 人間発達学部	A0入試	9月12日～9月22日	10月2日	10月7日
	3年編入A日程入試	10月5日～10月27日	11月5日	11月11日
	推薦A入試	10月5日～10月27日	11月5日	11月11日
	推薦B入試	11月8日～11月28日	12月4日	12月9日
	一般A日程入試	1月10日～1月23日	2月5日・6日	2月13日
	センター前期入試	1月10日～1月31日	センター試験のみ	
	センター後期入試	2月17日～3月7日	センター試験のみ	
■ 大学院 人間発達研究科	一般B日程入試	2月17日～3月7日	3月13日	3月15日
	3年編入B日程入試	2月17日～3月7日	3月13日	3月15日
■ 大学院	一次入試	9月12日～9月22日	10月2日	10月7日
	二次入試	11月8日～11月28日	12月3日	12月9日

※(注)各入試で実施されるコースや専攻の詳細及びその他の入試については、
2012学生募集要項を参照してください。



2010年11月
旧加藤邸
アートプロジェクト2010
『記憶の庭で遊ぶ』
『音楽パフォーマンス』



北名古屋市市民芸術劇場2010
ザ・ベストテン CONCERT
2010年11月



「常滑市と
名古屋芸術大学
との連携に
関する協定
を締結」
2011年9月



創立40周年記念事業「第九」
名古屋芸術大学オーケストラ
第28回定期演奏会
2010年10月 音楽学部



慶南大学 & 名古屋芸術大学
国際交流教員コンサート
2011年6月 音楽学部

名古屋芸術大学
アンサンブル・
フィラルモニク・
ア・ヴァン
第12回定期演奏会
2011年2月 音楽学部



Close up!

進化する「名古屋芸大」のDNA

NUA-ism



最新作の『ざりがににつり』は、実際にモデルとなった子ども園に取材へ赴き、子どもたちを絵にした。「いい加減なものを出したくないので、一度はお断りしたんです。育児中なので取材にも行けないし……。年1冊くらいのペースで出せるような仕事しか今はひき受けません。今は子育てが大事ですから。時間ができたら、もっと作りたいです」。



Vol.33
NUA-OG
かつらこ



造形絵本作家

1974年岐阜県生まれ。1997年名古屋芸術大学洋画科卒業。絵本に『かっぱたろうとさかなぶえ』『ライオンはかせのはなやさん』(BL出版)、『ながいなが〜い』(くもん出版)、『狂言えほんかたつむり』(文:内田麟太郎 ポプラ社)、『だんどんだんどん』(PHP研究所)、挿絵に『ちよまげらのすけ』(文:最上一平 国土社)がある。

子育てをしながら絵本を描く一方、造形作家として陶芸、銅版画、お面、ガラス絵など立体作品の制作も続けている。

生きることは、作ること

小さな子ども向けの玩具。整頓された子供服の収納ボックス。一枚板で作られた厚手のテーブルの端には、えんぴつで描かれた小さな落書きも見える。かつらこさんは、2歳になる愛娘の母親。子育て中の“かあちゃん”でもある。お宅は、前述のように小さな子どもに合わせたものとなっているが、それだけではなく作家のイメージの産物が同じ空間にひしめき合う。おさな子の手によると絵と巧妙に色合いを重ねられた絵が仲良く壁に並び、空間のそこから、お面、招き猫、かえる、人形など多数の造形作品が顔をのぞかせている。麦茶が注がれた器も手作りだ。「作るのが大好きなんです。とにかく作りたいんです」。

大学卒業後、一旦は養護学校の講師となるが、1年で辞め、造形絵画教室の講師へと転職する。理由は2つ、ひとつは本当に絵の好きな子どもに教えなくなったこと。そして、もう一つは、自分の作品にかけられる時間を確保するためであったという。「生徒さんは、学校が終わった夕方から教室へやってきて、夜までの間、授業をします。だから、それまでの昼間の時間と、授業が終わって家へ帰ってからは、作品をひたすら作っていましたね。20代の頃は、ずっとそんな生活でした」 子どもたちが制作に励む姿を見ていると、刺激され、う



◀左上から
『絵封筒を送ろう』
(文化出版局)
『かっぱたろうと
さかなぶえ』
『ながいなが〜い』
『だんどんだんどん』
『ライオンはかせの
はなやさん』
『ざりがににつり』原画▶



ずうずうしてしまったと笑う。「発表することよりも、とにかく作ることが好きなんです」。

絵も、お面や招き猫などの造形物も、濃密な色合いが目を引き。そして、どこか懐かしく、穏やかな気持ちにさせる。「『和』が好きなんです。学生の頃から、海外へ行く人が多かったんですが、私は行けなかったんです。悔しくて、それで、日本にもいっぱいいいところがあるんだぞって。日本にいて、日本人にしか描けないものを描いてやろう、作れないものを作ってやろうと。今もその気持ちは変わりません。作品に日本の懐かしさや暖かさを込めようと、いつも考えています」

絵本は、学生の頃から取り組んでいたが、転機となったのは、処女作の『かっぱたろうとさかなぶえ』。出版社のコンクールで受賞し出版されると、編集者の松田素子氏の目にとまり、『狂言えほんかたつむり』(ポプラ社)での仕事をしてからは、他の編集者にも注目されるようになった。気が

つけば、数多くの本を手がけることになっていった。「かっぱたろうは、1週間ほどで描き上げました。下絵も何もし、話も絵も“降りてきた”としか言いようがないです(笑)。絵本の制作は、物語の中を自分が走っていくような感覚が大好きで……。その後、いろいろな編集者の方と仕事をするようになり、それから絵本のことについて教わりました。勉強することは大事ですね」 味のある子どもの絵を描けるようになることが、自分の大きな課題だと話した。

「どんなに才能があったとしても、止めてしまったらそこで終わり。どんなことがあっても続けること、あきらめないで作り続けることが大切です。継続は力なりです。取材を受けることに、あまり乗り気ではなかったと打ち明けられた。「取材を受けるなんて早すぎますよ。まだ、私は始まったばかり。いい作品ができるのは、まだこれからですよ(笑)」。創作への意欲は尽きないようだ。

ラッキーだけじゃない



第3回横浜国際音楽コンクール 一般の部
第一位受賞

Vol.34
NUA-STUDENT
加藤 佑
(かとう ゆう)
音楽学部 大学院音楽研究科 2年

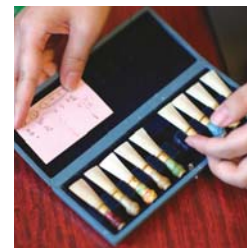
「緊張せずに堂々と吹けるように……、大学院を修了する頃には、堂々と、素敵な音で、何の支障もなく、吹けるようになってはいるはずだったんですけどねえ」

少しはにかんだように笑いながら話してくれるのだが、全くの謙遜ばかりではないらしい。「まだまだ、できないことばかりです」。

ファゴットを専攻する。最も大きな木管楽器で、オーケストラの低音部を担当する。「音楽的なことを言えば、伴奏もできれば、旋律も吹けるし、対旋律も吹ける。「おいしいなあ」と思います」とのことだが、「オーケストラをバックにするようなファゴットコンチェルトはこれまで2回しか見たことないですね」。低音楽器らしく演奏全体を支えるのが、やはり大きな役割といえる。ファゴットの演奏では「他の楽器が演奏しやすいように」と考えることもあるという。そんなファゴットの役割と自分を重ね合わせるかのように、自分が前に出ることをためらってしまうのが目下の悩み。ファ

ゴットを続けていくためには、オーケストラに入ることが必須といえるが、オーディションに踏み切れずにいる。「フリーで活動する人や先輩方、自分よりもすごい人たちもたくさんいるんです。自分なんか受けるのも、申し訳ないような気分で。自分はいつもラッキーだっただけ、のような気がして……」。

しかし、糸口は見えているようだ。どうすればいい結果につながるのか、何を考え、自分をコントロールし、表現するかは自分なりにわかっている。煮え切らない表情の中にも澁刺とした輝きが見える。「必要なのは自信だけ」とは恩師の



手作りのリード。カラフルな色合いが可愛らしい。リード作りには練習と同じくらいの時間を費やす。「納得できるものは、まだ一度もできていません」。

言葉。飛び立つための勇気と憧れる気持ちは、ゆっくりと醸成されつつある。

前を向いて頑張るだけです

鞆から取り出したのはメモ帳ほどの小さな大学ノート。そこには、小さな文字がびっしりと書き込まれている。「いい演奏を聴いたとき、その演奏のどこがいいのか考えたり、自分の音と何が違うのか、それを直すにはどうすればいいか書き込むんです。プロの演奏家書いた練習法の本なんかでも、ヒントになるようなことがあればメモしているんです」小さなノートは何冊も鞆から出てくる。常に持ち歩いて読み返しているのだろう。紙はよれて、端から波打ってしまっているが、丁寧に扱われていることがよくわかる。「いい演奏にしても自分の理想の音にしても、感覚的なものなのでしばらくすると



細かな文字が書き込まれたノートが3冊も4冊も鞆から出てくる。一途な人柄や音楽への情熱を感じさせる。「これを元に練習したり、つまづいたときに読み返したりします」。

忘れちゃうんです。だから、忘れないように、その時の感覚をできるだけ残しておこうと書くんです。これを元に練習したり、つまづいた時に読

み返してみたりしています」。

真摯な努力には理由がある。高校時代に、音大への進学を先生から反対されたというのだ。フルートは小学生の頃から始め、中学では吹奏楽部に入部。音楽の道へ進みたいと、その頃には考えていたという。高校へ進学、当然吹奏楽、フルートを希望した。しかし、希望者が多く、一度は落とされてしまう。落とされた後に、音大への進学を希望していることを知られて、強い反対を押しきってフルートにしてもらった。「吹奏楽の強豪校で、先生が音大や演奏家の実情に詳しく反対されました。実力がものを言う厳しい世界であることや、世間には上手い人がいくらでもいることをさんざん聞かされました」それでもあきらめなかった。理由は「生来のあきらめの悪さ」と笑うが、不屈の強い気持ちがあったのだろう。そして、この経験は心のよりどころにもなっている。「あれ以上悩むことはないですよ。前を向いて頑張るだけです」。柔和な笑顔の向こうに逞しさが見えた。



Vol.35
NUA-STUDENT
岡本 卓也
(おかもと たくや)
音楽学部演奏学科弦管打・
バンドディレクターコース 3年

音楽学部

人間発達学部

音楽学部・人間発達学部合同の オープンキャンパス 2011.6.18 が開催されました

名古屋芸術大学東キャンパスで、音楽学部・人間発達学部合同のオープンキャンパスが6月18日(土)に開催されました。

午前10時からは、両学部合同のオリエンテーションが行われました。堀田音楽学部長と佐藤人間発達学部長の挨拶の後、人間発達学部子ども発達学科は佐藤英五学科長が、音楽学部演奏学科は山田敏裕学科長、音楽文化創造学科は久保田進子学科長が、各学科とコースの教育目標や特色・指導内容などについて説明しました。

音楽学部では午前11時から公開レッスン/ワンポイントレッスンが行われ、声楽・ピアノ・ヴァイオリン・フルート・クラリネット・ファゴット・トランペットなどの個別指導が行われました。

2号館の中アンサンブル室では、音楽療法体験授業が行われ、療法で使用される特殊な楽器で音を出しながらの実演を初めて体験しました。4号館多目的ホールでは、ピアノの貸切演奏が行われ、普段はグランドピアノを弾く機会の少ない高校生達が、一生懸命練習をしていました。3号館ホールでは、電子オルガンコースの学生による演奏会が行われました。

1号館6階の大会議室では入試相談コーナーが開設され、熱心に相談する親子連れが見られました。

午後からは、体験学習として吹奏楽体験やサウンドメディア体験が行われました。また、オーケストラ公開リハーサルやフルートオーケストラ公開リハーサル、さらに、ジャズ・ポップスコースの



オリエンテーション風景



吹奏楽体験



小麦粉粘土制作

学生によるライブコンサートやミュージカルの公開リハーサルなども行われ、音楽にあふれたキャンパスとなりました。午後3時から、コース合同の特別企画として「サマステージ」と題したライブコンサートが行われ、オープンキャンパスを盛り上げました。

人間発達学部では、模擬授業が「人の話を聴くって」と「都道府県名を言えますか?」というテーマで行われました。また、小麦粉粘土制作や折り紙・お絵かきの体験コーナーも設置されました。1

号館2階のロビーでは、ゼミ発表として、乳幼児の発達を助けるおもちゃとモンテッソーリ感覚教具の展示と説明が行われました。また、調理実習室では、お菓子作りが行われ、大学生と一緒に子どものお菓子作りを体験しました。

1階ロビーでは、キャンパスツアーとして、学生が附属のクリエイティブ園や東キャンパス内を案内して廻りました。さらに、7階ロビーでは相談コーナーが設置され、知りたいこと何でも聞いてコーナーとして、大勢の参加者で賑わいました。

音楽学部

名古屋芸術大学ジャズ・ポップスコース主催 ケイコ・リー氏 公開講座 が行われました

2011年7月7日(木)名古屋芸術大学東キャンパス2号館で、音楽学部音楽文化創造学科ジャズ・ポップスコース主催による特別客員教授ケイコ・リー氏の公開講座が行われました。

ケイコ・リー氏は、21歳から独学でピアノを弾くようになり、ピアニストとしてジャズやシャンソンの伴奏を経験した後、徐々にシンガーへと転向。95年のデビュー作『イマジン』以来、多くの作品をリリースしています。存在感のあるヴォーカル・スタイルとディープ・ヴォイスが評判を呼び、共演したミュージシャンから「楽器と対等に渡り合える歌手」と絶賛されています。その即興性と瞬発力にすぐれたパフォーマンスには定評があります。

今回の公開講座は、ジャズ・ポップスコースの学生に対して、ケイコ・リー氏によるヴォーカルレッスンというかたちで進められました。

最初にレッスンを受けたのは、井上双葉さん(4年生)、ピアノ伴奏は藤井浩樹さん(2010年度卒業生)。声の出し方・発声の仕方や、歌うリズムの取り方などで、特に、前方に向かって大きく声を出すイメージを指導していました。

次にレッスンを受けたのは、葛島亜純さん(4年生)、ピアノ伴奏



葛島亜純さんのレッスンの様子



ヴォーカルレッスンを真剣に視聴する参加者たち



熱唱するケイコ・リー氏

者は勝 良平さん(2009年度卒業生)。葛島さんには、正しい発声の仕方、喉を大きく開いて声を出す歌い方を指導されました。正面に数千人が入っているホールをイメージして、そこに向かって声を出すように歌うことが大切と指摘されました。最初に歌った自己流の歌い方と指導後では、全然おもむきが異なり、違う曲かと思

れるほどの上達ぶりでした。ヴォーカルレッスン終了後は、ケイコ・リー氏によるソロが披露されました。

渡辺規夫氏(本学非常勤講師)のギター伴奏で2曲が歌われ、世界に認められているジャズ・ヴォーカリストの歌声に、満席の視聴者は酔いしれていました。

音楽学部

名古屋の夏を彩るジャズの祭典 「NAGOYA GROOVIN' SUMMER 2011」 が行われました

2011年7月30日(土)と31日(日)の2日間、名古屋市中区栄のオアシス21、名古屋テレビ塔を中心に行なわれたジャズライブステージ

「NAGOYA GROOVIN' SUMMER 2011」が開催されました。このライブイベントは、公益財団法人名古屋文化振興事業団が主催する

ジャズフェスティバルです。プロ、アマ、学生問わず、ジャズをこよなく愛するビッグバンドたちが集結し自慢の楽曲を披露します。名古屋芸術大学はこのイベントを特別協賛としてサポートしています。ステージ演奏にも、名古屋芸大

音楽学部に所属するビッグバンドサークル「JUMPA SWING ORCHESTRA」や名古屋芸大音楽学部OB、OGが中心のバンド「AUTOBahn JAZZ ORCHESTRA」、「B-Style Big Band」が参加しました。

30日(土)は、メインステージのオアシス21会場のオープニングアクトとして、JUMPA SWING ORCHESTRAが登場。暑さに負けないノリノリの演奏を聞かせてくれました。

その後が続くのは中高生たちのバンド。名古屋市立若葉中学校をはじめ、愛知県立尾北高校、名古屋市立工芸高校、愛知中学・高等学校、愛知県高等学校合同ジャズアンサンブルが大人顔負けの演奏を披露。会場からは惜しめない拍手が贈られました。

17時からはAUTOBAHN JAZZ ORCHESTRAがステージを務めました。2009年ティナーサクスの山崎貴大さんの呼びかけによ

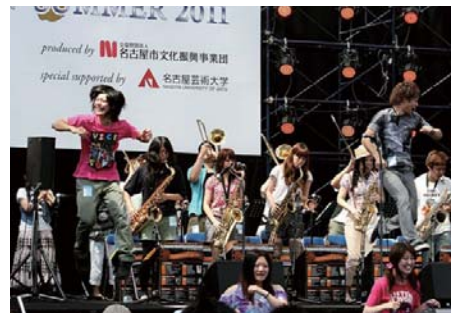
り結成されたビッグバンドです。ドラムは七福さんこと名古屋芸大音楽学部ジャズ・ポップスコースの丹羽和久講師が担当しています。初日のラストを飾るゲストは中西俊博さんと伊賀卓郎さんのデュオ。名古屋市立工芸高校のみなさんとAUTOBAHN JAZZ ORCHESTRAとJAMPA SWING ORCHESTRAも加わり2曲を演奏。会場を大いに沸かせました。

31日(日)は、18時からB-Style Big Bandがステージに登場。名古屋芸術大学出身でリーダーであるパーカッショニスト荒川琢哉さんとサクソプレイヤーの山崎貴大さんを中心に愛知、岐阜の若手ミュージシャンが集まり2007年

に活動を開始したラテンジャズビッグバンドです。

B-Style Big Bandのステージの前には、名古屋市立守山西中学校、名古屋市立本城中学校、名古屋市立工業高校、名古屋市立向陽高校のみなさんがフレッシュな演奏を

聴かせてくれました。そして、最終ステージに登場したカルロス菅野さんのスペシャルコンボには、本城中学校のみなさんとB-Style Big Bandも参加。溢れかえるようなラテンサウンドのグループでグランドフィナーレを飾りました。



JUMPA SWING ORCHESTRAはアンコール曲でメンバーもJUMP!



実力派揃いのビッグバンド AUTOBAHN JAZZ ORCHESTRA
演奏を見つめる未来の名古屋芸大生たち?

音楽学部

名古屋芸術大学 音楽学部 演奏学科特別演奏会 「コンチェルトの夕べ」、「ピアノサマーコンサート」 が行われました

2011年7月14日、名古屋伏見の三井住友海上しらかわホールで、音楽学部演奏学科特別演奏会「コンチェルトの夕べ」が開催されました。

本学では、音楽の表現を通して芸術を追求するという教育目標のもとに、学生の演奏会経験を貴重なものとして位置づけ、「コンチェルトの夕べ」を開催しています。フル編成のオーケストラと共演でき、多くのことを学べる大変貴重な機会です。

最初に、管弦楽：名古屋芸術大学オーケストラ（指揮：古谷誠一教授）の演奏で始まり、G.A. ロッシーニの「アルジェのイタリア女序曲」が演奏されました。この曲はロッシーニが作曲した2幕からなるオペラです。

続いて、本日出演のソリスト6名が、W.A.モーツァルト、R.シューマン、R.ラフマニノフのピアノ協奏曲を、第1楽章と第2・3楽章に分かれて演奏しました。

オーケストラと共に、精一杯の



演奏する学生たちに、会場から大きな拍手が送られていました。

演奏学科特別演奏会の第2弾として8月8日(月)には、本学音楽学部3号館ホールにおいて、第13回ピアノサマーコンサートが行われました。このコンサートには前期

ピアノ実技試験で選ばれた成績優秀者が、1年生から3年生まで延べ21名出演しました。

常日頃、ピアノ演奏に真摯に取り組んでいる学生たちの成果を披露する調べが、真夏の夜のホールに響いていました。

人間発達学部

2011年度 人間発達学部特別公開講座 「今後の保育・幼児教育の動向と課題」 が行われました

2011年8月6日(土)、名古屋市中村区の愛知県産業労働センター内「ウインクあいち」大ホールで、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 理事長の小田 豊氏による「今後の保育・幼児教育の動向と課題」をテーマにした特別公開講座が行われました。講座では内閣府より発表された「子ども・子育て新システムに関する中間とりまとめについて」の概要を解説されました。

小田氏は、国立滋賀大学教育学部の教授から1994年に文部省へ。

教科調査官、主任視学官、国立教育政策研究所次長などを経て、2004年より国立特別支援教育総合研究所の理事長を務めています。

国立特別支援教育総合研究所は、文部科学省所在の特別支援教育に関する研究機関です。障害のある子ども一人一人の教育的ニーズに対応した教育を実現させていくため、国の政策課題や教育現場等の課題などに対応した研究活動を中心として、研修事業、教育相談活動、情報普及活動などを行なっています。国立特別支援教育総合研



小田 豊氏

究所の理事長として小田氏は「一人ひとりが違う、一人ひとりの良さがある、一人ひとりのニーズに応じた幼児教育を行なっていく必要があります」と話されました。また、施設に隣接する付属学校の発達障害を持った子どもたちとの生活を通して、教育の在り方、取り組みについても説明されました。



熱心にメモを取りながら聞き入る聴講者の皆さん

続いて、小田氏もワーキンググループの委員として関わる内閣府の「子ども・子育て新システム検討会議」より2011年7月27日(木)発表されたばかりの中間とりまとめの主旨や背景、具体的なポイントなどを解説されました。

解説にあたり、小田氏は「前提として、この制度でいう幼保一体

化は、従来から議論される幼保一元化とは全く考え方が違います」と強調されました。そして、この制度の基本的な考え方は「全ての子どもへの良質な育成環境を保証し、子ども・子育て家庭を社会全体で支援する。そして新たな一元的システムの構築です」と述べ、子どもと子育て家庭を応援する社

会の実現に向けた制度構築について、経緯や具体的な取り組み方を説明しました。また、この制度の背景には少子化や子どもの学力低下、家庭教育の崩壊などの要因があることも付け加えました。

小田氏は「誰もが選択自由な社会の実現を目指して話し合いを進めました。各家庭も自分の子ども

の教育を選択できることが重要です。幼保一体化と給付システムの一体化で、本当に必要なところへ給付します。また、子ども園給付(仮称)では、3歳、4歳、5歳の保育料が全国一律になることで、親はワークライフバランスの違いや子どもの性格に応じて、幼稚園、保育園を迷うことなく選ぶことが

できるようになります。」と説明しました。また、この制度により幼稚園、保育園の運営上の変化についても、丁寧に説明されました。最後に、平成23年度中に法制上の措置を講じ、法案を国会に提出して法制化を目指すことを付け加え、講演を終えられました。

人間発達学部

人間発達学部のオープンキャンパスが行なわれました

人間発達学部本年度第3回目のオープンキャンパスが、2011年8月27日(土)名古屋芸術大学東キャンパスで開催されました。

「人間発達学部オリエンテーション」では、佐藤学部長の挨拶に続き、教育内容や学校行事、学科内の活動、学生生活や入試情報を星野学科長が説明しました。

オリエンテーション参加者は「模擬授業」会場へ移動。2つのコースから好きな授業を受講できる選択式です。「遊びの中で成長していく子ども」をテーマにした授業では、遊びを通してたくさんのことを学んでいく子どもたちの映像を見ながら参加者が一緒に考えます。また「幼児期から児童期への知性の発達を授けるモンテッソーリ教具」という授業では、生活と遊びの中で感性や知性が育つ幼児期から児童期に適したモンテッソーリ教具の紹介と教具の使

い方などの指導を受けました。

模擬授業のあとは、それぞれの目的に合わせて自由にキャンパス内を見て回りました。メイン会場の1号館のロビーや教室には、たくさんの体験コーナーが用意されています。例えば、2階ロビーでは模擬授業で学んだばかりのモンテッソーリ教具が並べられ、自由に触ったり、みんなで遊ぶこともできます。4階の教室では懐かしい小麦粉粘土を使ってかわいい動物やスイーツデコづくりなど創作体験にチャレンジできます。3階ロビーの折り紙・お絵かきコーナーも多く参加者で賑わっていました。「お菓子づくり体験コーナー」では、子どもに人気のオムライスやアーモンドクッキー作りに挑戦しました。料理作りのあとの試食タイムでは、学校のことや授業、学生生活について在校生から直接聞くことができた参加者



模擬授業②(幼時期から児童期への知性の発達を授けるモンテッソーリ教具に学ぶ)



受付では在学生スタッフが笑顔で迎えてくれます



オリエンテーション会場は参加者でいっぱい!



小麦粉粘土で作る楽しい創作体験



模擬面接は佐藤学部長自ら面接官を務めます



ピアノ相談コーナーでのレッスン風景

から好評でした。7階ロビーに設けられた「知りたい事、何でも聞いてコーナー」でも担当教員や在学生が対面で疑問、質問に答えてくれるので、多くの参加者が相談に訪れていました。

11号館で行なわれた「ピアノ相談コーナー」は未経験者にも安心の初歩からのピアノレッスンが受けられます。また、8号館の体

育館では参加者を歓迎したりリズム体操部の演技や吹奏楽部による演奏が行なわれました。利用者が多いキャンパスツアーは、隣接する付属幼稚園「クリエ幼稚園」を在学生がコンダクターとして案内してくれます。子どもの視点で施設を説明してくれるので、参加者にとっては意外な発見も多いようです。

美術学部

デザイン学部

オープンキャンパス2011 未来の自分に会う

2011年7月17日(日)、美術学部・デザイン学部の本年度2回目のオープンキャンパスサマー編Ⅱが開催されました。

今回のオープンキャンパスは、アート&デザインワークショップでさまざまな体験ができるのがポイント。デザイン学部では、コンピュータを使ってデジタルアニメーション制作をする「デジタル映像制作」、雑誌モデルのようにポーズをきめてデジタル一眼レフカメラで撮影し、その場で缶バッ

チやフォトプリントを作製する「デジタルフォト体験」、世界に一つだけの指輪を作る「シルバーリング制作」、「似顔絵体験」、「ペーパーメイキング」など、さまざまなワークショップが開かれました。参加者は、自分で作品を作ることを通してデザインの楽しさを体感していました。

プロダクトデザイン入門「デザイントレイの制作」では、描いた下絵を写した木を電動糸鋸でカーブに注意しながら切り抜き、真空

成形機を使ってプラスチックに型取りする工程を体験していました。参加者は、初めて見る道具の使用方法を学びながら、真剣に取り組んでいました。

美術学部では、ボールペンやカラーペン、色鉛筆やコンテ・パステル・クレヨン、鉛筆、木炭、ガッシュ、水彩などの様々な描画材料を自在に使って、モデルのダンサーを描写・表現する洋画技法体験をはじめ、1300℃に溶けたガラスを竿で巻いて吹く「吹きガラスに挑戦」などを体験しました。

また、ゆったりとしたカフェ空間で作品を鑑賞したり、美術情報

を検索したりできるアートカフェもオープン。参加者はドリンクとクッキーで一休みし、アートについて語り合ったりしました。

今回のオープンキャンパスでは、デザイン学部の特別客員教授を務める檜原由比子氏によるワークショップと講習会が行われました。「オープンキャンパスサマー編Ⅱ」のプログラムを兼ねたこのワークショップは、ヴィジュアルデザインコース3年を対象にしたデザイン演習前期授業の一環で、新しい視点を加えることで、生活が豊かになるカレンダーをグループワークで制作します。

今回は、7月12日(火)に行われた中間発表と講習会で、檜原氏や担当教員の永井講師から受けたアドバイスを、各グループがどこまで仕上げられているかチェックする最終プレゼンの場です。講習会を始める前に「中間発表ではパーツしかできていなかったり、未完成だったグループもあり心配していましたが、ここまで完成度を高めた最終プレゼンの展示をしてくれるとは思ってもみませんでした。この教室に入って展示を見た瞬間、胸に熱いものが込み上げてきました。」と檜原氏は学生たちの健闘をたたえました。

大学情報の発信の場となった体育館では、国際交流コーナー、進路・入試情報コーナー、就職コー

ナー、美術学部の工芸・日本画・彫刻・洋画の各領域の相談コーナーやスチューデントギャラリー、アートワークショップがありました。先輩たちの作品を熱心に見ている人、作品づくりを楽しむ人、また相談コーナーで自身のデザインを見せてアドバイスを受ける人などの姿が見られました。

大学内では、入試参考作品や各コースの学生が実技課題で生み出した作品の数々を展示した企画展「スチューデントギャラリー」が開催されました。参加者は作品を細部まで観察し、手にとって素材を確かめたり、在校生に質問するなどして作品を鑑賞しました。

また、アート&デザインセンターでは、「洋画1コース3年展」

が開催され、授業内に制作した作品が展示されたほか、X棟1階の和室では、クラフトブロック教員

による「教員作品展」が開催され、趣向を凝らした展示内容に参加者は目を見張っていました。



ペーパーメイキングのコーナー(テキスタイルデザイン)



消しゴム版画でオリジナルエコバックを作る



日本画の「岩絵の具体験」



カーデザインに挑戦(カーデザイン入門)



スチューデントギャラリーを熱心に見学する参加者



デザイン学部の相談コーナー

デザイン学部

公開講座「デザインと文化2」 山崎 晃氏「デザインは楽しい」 が開催されました

2011年7月2日(土)名古屋芸術大学西キャンパスで「デザインと文化2」(担当教員:祖父江博史准教授)主催の公開講座が開催されました。ゲストは名古屋の広告業界で長年活躍するグラフィックデザイナーでイラストレータの山崎晃氏です。

デザインの仕事がお好きだという山崎氏。「デザインは本当に楽しいですよ!」と受講者に語りかける時の笑顔がとても魅力的です。その山崎氏が受講する学生に「デザインには、いろんなジャンルがあり、いろんな仕事があります。朝起きてテレビを観る、新聞を読む、その瞬間の情報にも全てデザイナーの手が入っています。身近なもの全てがデザイナーの仕事領域だといえます。だから

こそ、何がしたいか早く見つけることが大切。まずは自分に向いている仕事や会社を考え調べる。その時間が取れるのは学生の特権です。将来の仕事に向けてのスタートはできるだけ早く切った方がいい。長く続けることができる仕事を見つけてください。」とアドバイスしました。

もともとイラストが描きたいタイプの山崎氏は、広告デザインにイラストを使う提案も多くなりがちで、平面から立体イラストまで手掛けた広告点数は数限りないとのこと。自らのイラストを使うこともしばしばです。山崎氏曰く「イラストの仕事をするには、できるだけ作品を多くの人の目に触れさせることが重要。そして、得意とするスタイルを1つ以上作る



名古屋を中心に広告デザインを手がける山崎 晃氏



このイラストスタイルが人気を博した2005年の「愛・地球博」ポスター



全国ポスターコンクールで金賞を受賞したテレビ番組ポスター(中央)

と息が長い。」2005年に愛知県で行われた日本国際博覧会「愛・地球博」のデザインコンペに描いたイラストが好評で、その後多くの企業広告で山崎氏のイラストが採用されています。

デザインの仕事をを目指す学生に山崎氏はこうもアドバイスしました。「広告デザインは1人ではできない仕事です。チームやパートナーがあっはじめて成り立ちます。腕や感性を磨くことはもちろん大切ですが、人脈作りもとても

重要な仕事です。ネットワークを活かして、いい仕事をするためのパートナー作りを心掛けてください。私も中部クリエイターズクラブや名古屋イラストレータークラブに所属することで仕事の幅を広げています。」

最後に「デザインに定年はない!」と宣言。65歳でまだまだ現役の山崎氏。「デザインの仕事は終わりが無いのが魅力です」と答えられ、デザインに対する深い愛情を感じずにいられません。

デザイン学部

公開講座「デザインと文化4」 永井文雄氏による「彫魚デザインと制作」 が行われました

2011年7月23日(土)、名古屋芸術大学西キャンパスで「デザインと文化4」(担当教員:久野利博教授、平田哲生教授)の公開講座が行われました。ゲストは彫刻家の永井文雄氏です。グラフィック

デザイナー、イラストレーターとして東京で活躍。その後、魚を彫刻するフィッシュカービング作家へと転身し、現在は名古屋を拠点に活動されています。

永井氏がフィッシュカービング

を始めたのは、趣味の釣りがきっかけでした。「釣った魚を自身の手で作ってみよう!」と思い立ち、フィッシュカービングを見よう見まねで始めましたが、立体造形に対して素地があるわけもなく、最初はうまくいかなかったと永井氏はいます。ただ、ノミを持つ手を動かし、汗をかき躍動する。今

までのデザインやイラストの仕事では、味わったことのない高揚感を感じつつ、最初のニジマスを完成させました。その時「自分の好きなもの、打ちこめるものにやっと出会うことができた!」と感動を覚えたといいます。それ以降、作家として300点以上の作品を作り、今もその制作意欲が衰えるこ

とがないと言います。

永井氏は、釣り上げた魚に感動し、触れ合うことで創作意欲が高まると言います。「魚たちの美しさ、力強さ、フォルム、カラー、ファイト。どれを取っても魚たちはアイデンティティーを主張し、オリジナリティーを持っていることを出会うたびに感じ、そして魚たちへの感謝を忘れない。」と語りました。

後半では、作品のもう一つの主役である木や大切な道具について

レクチャーしました。その中で、木の匂いを嗅ぐワークショップを行いました。木の表面を引掻くだけで香りが立ちます。このワークショップを通じて、少しでも木に興味を抱いて欲しいと永井氏の願いが込められていました。

永井氏は受講者に対して「興味を持ったことは全てやってみましょう。それが、自分のやりたいことを引き寄せるコツです。その中でやりたいことが見つければ儲けものと考えましょう。一歩踏み

出す時には投資することも重要です。その投資は必ず自身に帰ってきますよ。まずは恐れずに始める

ことです。」とアドバイスして講座を結びました。



道具の大切さを解説する永井氏



木の匂いを確認するワークショップ



リアリティー溢れる作品

美術学部

ニューヨークを拠点にしたアーティスト 長澤伸穂氏の公開授業 が行われました

洋画2コースが主催する公開授業（担当教員：大崎正裕教授）が2011年7月12日（火）名古屋芸術大学西キャンパスで開催されました。ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校教授でニューヨークを拠点に世界で活躍するインスタレーションアーティスト長澤伸穂氏を迎え、「ART ACTIVISM」をテーマに行われました。現在の世界の状況の中で、アーティストはいったい何ができるのか、何をすべきなのかといった観点から長澤氏の作品を通してレクチャーをするものです。

長澤氏は、日本の高校を卒業後、東西冷戦さなかの80年代のベルリンでアートを学びました。そのためもあってか、作品には、戦争と平和、異文化への寛容と相互理解、命の大切さ、をテーマにしたものが数多く見られます。それらひとつひとつを解説し、作品に込

められたテーマについてお話しいただきました。85年の第2次世界大戦時に爆破されたユダヤ教会跡地でのアースワーク（野焼き）「地球のおへそ」、86年、ニューヨークでのシルクロードでの遊牧民の住居「マケット」の展示、92年のプラハ城での土囊（どのお）を使った「橋」、ハンガリーのブタペストでの「門」、93年のドイツでの、アーヘン大聖堂に似せた「八角形ドーム」などで、それぞれのテーマについてお話されました。プラハ城での土囊の「橋」には、チェコ共和国とスロバキアに分裂した二つの国を繋ぐ懸け橋となる意味が込められていますが、単に融和を示すものではなく、混ざり合いながらもけて混合せず、両国の調和を象徴しながらも個々のアイデンティティーは固持されるという意味も込められていると説明されました。

また、作品は、「作って持つてくのではなく、現地の人たちと関わりながら、その土地の物を活かして作品を作っていくことを目指しています」と語り、作品の制作プロセス自体が重要であると語りました。特に、95年の『要塞モテル：非常子宮』では、第2次世界大戦中ナチスドイツにより強制的に作らされた、デンマークの海岸に残されたトーチカ（要塞）を作品の場を選び、土地の人たちに反対されながらも作品を完成させます。土地の人たちにとっては忌まわしい歴史の産物であるトーチカですが、その地に住んでいる人の話を聞き、根気強く交渉を重ね、理解を得ることで実現にまでこぎつけます。土地全体を巻き込み、人との対話や議論、相互理解を通して作品を完成させたプロセスにより、社会におけるアーティストの役割をさらに強くしたとい

います。また、作品は、「作って持つてくのではなく、現地の人たちと関わりながら、その土地の物を活かして作品を作っていくことを目指しています」と語り、作品の制作プロセス自体が重要であると語りました。特に、95年の『要塞モテル：非常子宮』では、第2次世界大戦中ナチスドイツにより強制的に作らされた、デンマークの海岸に残されたトーチカ（要塞）を作品の場を選び、土地の人たちに反対されながらも作品を完成させます。土地の人たちにとっては忌まわしい歴史の産物であるトーチカですが、その地に住んでいる人の話を聞き、根気強く交渉を重ね、理解を得ることで実現にまでこぎつけます。土地全体を巻き込み、人との対話や議論、相互理解を通して作品を完成させたプロセスにより、社会におけるアーティストの役割をさらに強くしたとい

ていく作品スタイルです。そのため、コンセプトとマテリアルが作品にとってとても重要です」また、「プロセスが作品であり、アイデアが一番大切です」と長澤氏はいいます。最後に「9.11や3.11以降、アーティストは人と関わり、社会と関わり、発言することが求められています。政治家に政治を任せる時代ではありません。社会を作る一員として積極的に参加していくことが必要です」と講座を締めくくりました。



ニューヨークを拠点に活動する長澤伸穂氏

Column NUA No.14



ネットに浮かぶ雲の向こう側

音楽学部教養部会講師 大崎 竜也

大学を卒業し昔から好きだった音楽を創ることを仕事にするため、私にはコンピュータが必要でした。

当時、YAMAHAから音楽制作機能に特化したMS-DOSベースのコンピュータが発売されました。

「自分一人で、バンドやオーケストラが出来るなんて！」私はそれに飛びつきました。

それはフロッピーディスクで起動し、立ち上げるためのパッチファイルを自分でプログラミングするものでした。コマンドを間違えると、「BAD COM-

MAND OR FILE NAME」と表示され動かなくなります。その頃は画面表示もプログラミングも全てが英語で、OSを深く理解すること無しには、アプリケーション・ソフトウェアを使うことが出来ませんでした。

そして次にMacintoshとの出会い。（当時はApple Computer社のMacintoshは『大変高価な林檎』でした）。何もかもが斬新でした。特にコマンドを使わなくとも全てメニューとアイコン

から始めることが出来たのが画期的でした。仕事先のスタジオで触れ、自分の持つコンピュータとの操作性の大きな違いに胆胆と感動を同時に覚えるほどでした。

あれから20余年、すべてのコンピュータはインターネットという『大空』に羽ばたきました。またそれは、携帯電話やスマートフォン、テレビ、様々なデジタル・デバイスがこの『大空』とまるで『雲』のように浮かぶ

美術学部

デザイン学部

小・中学生とシニア対象の芸大体験

『一日芸大生』開催

みんなが芸大生になる日。未来の自分に出会えるかも？

美術学部・デザイン学部で2011年7月31日(日)、『一日芸大生』が開催されました。受講生は小学校3年生から中学生と50歳以上のシニアが対象で、日本画コースやメディアデザインコース・インダストリアルデザインコース・ガラスコース・陶芸コースなど13のコースが設けられました。

『一日芸大生』入学式が午前10時にスタート。芸大音楽学部の学生で作るバンド（Dream Brass）のオープニング演奏で幕を明け、

竹本学長のウエルカムスピーチの後、学部長・講師・チューターの紹介が行われました。その後、コースごとに別れてキャンパス内の8つの棟の教室で一日芸大生の授業が始まりました。昼食は、チューター指導により食堂で特製ランチ（アート弁当）を食べながら、クラスメイトの自己紹介などが行われました。

午後はそれぞれのコースに戻り、仕上げなどを行いました。また、保護者らも参加し、児童生徒が授



消しゴム版画(版画コース)

ミサンガ制作
(テキスタイルデザインコース)プロダクトデザイン入門
(インダストリアルデザインコース)

業を受けている間に大学の説明会や制作現場の見学ツアーも行われました。

授業終了後、体育館で卒業式が行われました。最初に、各コースの授業実施報告が行われ、作品の出来具合や成果などが担当講師か

ら報告されました。そして、美術学部長から受講生代表に卒業証書が授与され、チューターや担当教員を通じて全員に配布されました。最後に、Dream Brassのエンディング演奏が行われ、一日芸大生を終了しました。

グループ校特集

名古屋芸術大学附属 クリエ幼稚園

「附属幼稚園として、人間発達学部実習生の受け入れを積極的に推進しています」



クリエ幼稚園では、名古屋芸術大学人間発達学部の1年生を実習生として、20人くらいのグループに分けて、7グループ受け入れています。期間は、6月・7月・10月・11月の4ヶ月間で、各グループがそれぞれ月曜日から金曜日まで5日間となっています。

幼稚園の一日は環境整備に始まり、環境整備で終わります。朝、園児達が登園する前に園庭や周辺の履き掃除、保育室内の整備などを行ったり、保育後の掃除や時には教材準備などの手伝いもします。学生さん達は、各クラスに3～

4人ずつ入り、子ども達が友達とどのようにかかわっているのか、先生がどのような援助をしているのかを観察したり、実際に子どもとかかわったりします。

学生さんが子ども達を見ての第一印象は、「小さい!」ということ。そんな小さい子ども達から「お兄さん先生」「お姉さん先生」と呼ばれて、初めは返事しかできなかった学生さんも「明るく、元気に、笑顔で」子ども達に接していくうちに、次第に園庭を走り回ったり、一緒にままごとをしたりする姿が見られるようになります。

5日間という短い期間ではありますが、その中で幼稚園生活の流れや先生の援助の仕方や子ども同士のかかわりの中で見られる遊びの進め方やけんかの場面など、実習を通して学んでいます。

幼稚園という職場では「子どもが好き」が根底にありますが、「人」として生きていく上で一番大切な幼児期の子ども達の教育に携わること意義を感じています。

— 実習を終わっての感想より 抜粋 —

- 「子ども達が大好き、と言ってくれてうれしかった。何よりも、同じキャンパス内に実習施設があるのはすばらしい。」
- 「4人くらいの子がいつべんに遊ぼう、と言ってくれてうれしかったがみんな遊びが違うので困った。」
- 「子ども達はかわいかったけど、子どもの心が理解できず、何を言いたいのかわからなかった。」
- 「子どもが困っているとすぐに助けてしまうのではなく、少し考える時間や自分でやることの大切さを学んだ。」
- 「先生は一人の子だけでなく、常に周りのことをみていた。」
- 「子ども達がけんかをした時の対処の仕方を学んだ。」
- 「先生と子どものかかわりをみているいろいろな対処の仕方を学んだ。」
- 「子ども達の成長が見られる仕事だから改めて頑張ろうと思った。」

のコンピュータと繋がり世界を作り続けています。それはあたかも『宇宙』のように。

様々な情報は、経済活動、教育、芸術や文化、生活、価値観、そして個としての人と人との繋がり方などまで全てに影響し多様化させ膨大な量と速度で『宇宙』を拡げています。この『宇宙』とともに我々も歩んでいかなければいけません。しかし、この『宇宙』からの情報は、時として我々を混乱さ

せたり事件に巻き込んだり、人と人との繋がりを断絶させたりする危険をはらんでいます。『何が正しくて、何が誤りであるか』と言うことを判断させる能力をこれから育てていく子どもたちに我々大人が、そして教育者が教えていかななくてはいけない責務です。

このコラムが記事になる時、未曾有な大惨事を招いた東日本大震災から7ヶ月と言う時間が流れることとなります。「情報」という『宇宙』の持つ可

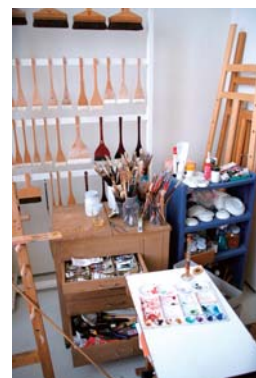
能性は新たな良い面や悪い面を生み出す結果となっています。この震災が『宇宙』の見方・使い方を我々に再確認させてくれたのです。私もこの『宇宙』を使って復興への手助けに少しでも役立つことを考えたいと思っています。

このコラムをまとめた日(8月24日)にSteve Jobs氏が一線から辞しCEOから会長職になったとの報道がされ、時の流れを感じています。私をこの道

に導いてくれた彼に感謝の気持ちを送りたいと思います。



マスター ↑↓to アーティスト



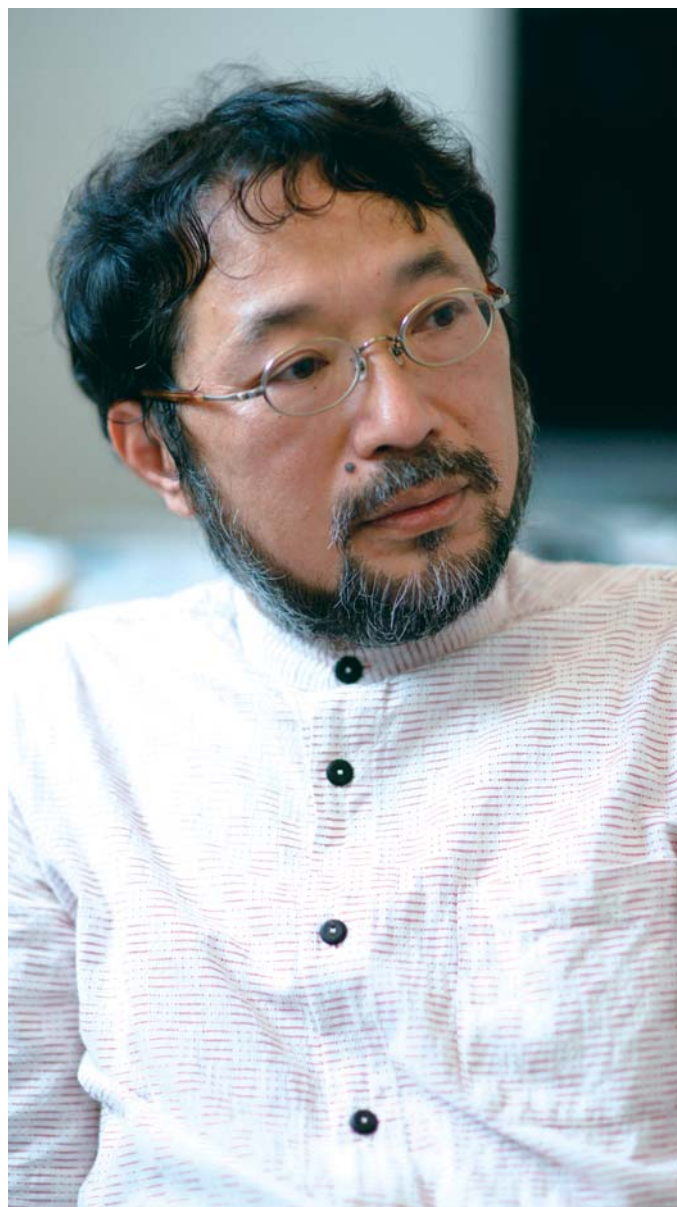
【第14回】

< 絵の向こう側 >

中澤英明 美術学科洋画コース
教授

(なかがわ ひであき)

1955年 新潟県生まれ
1981年 東京芸術大学大学院美術研究科修了
1996年 子どもの情景展(三重県立美術館)
2004年 子供の顔展(愛知県美術館)
2006年 内なるこども(豊田市美術館)
2010年 ひろがるアート(三重県美術館)



こちらをじっと見つめる子ども。真正面から、曰く言い難い視線を見るものに投げかけてくる。愛らしい顔立ちの子どもばかりなのだが、どの子どもどこか透徹したような、たじろいでしまうような瞳でこちらを見つめる。奇異に感じてしまう人もいることだろう。しかし、目を離すことができない。何故か？ ごく一部、自分のお子さんを描いた作品以外、モデルは居ないという。その視線の源にあるもののヒントを教えてください。

「学生の時に、三木成夫先生(解剖

学者、発生学者であり思想家・自然哲学者としても知られる)の生物の講義を受けて、それが無茶苦茶面白くて…。胎児のデッサンがしたくて夏休みに1ヶ月間、毎日、先生のところへ押しかけて行ったことがあるんですよ」ヘッケルの反復説、「個体発生は系統発生を繰り返す」(ある動物の発生の過程は、その動物の進化の過程を繰り返す形で行われる)を、実際の胎児の映像で確認する講義があった。「可哀想なんだけどメスで切り落とした首を、正面から見せてくれるんです。発育の時期によって対になる動物、サメだとか

ナマケモノだとか、と同じ顔なんですよ」生命に畏怖を抱くとともに、その不思議さに魅せられた。

もう一つの原体験。「僕が育った頃は、社会が、ハンディを持った子どもをあまり隔離しなかった時代で、そうした子が同級生でも何人かいました」脳性小児麻痺だった無口な子、発達障害で足が萎え歩けない近所のおにいちゃん、いつも眼帯をつけ薄暗い部屋に籠もっている女の子、肝臓疾患で顔が浅黒くむくれてしまっている子、頭部に火傷を負った子。常人とは異なる、細く柔らかな髪、薄い虹彩の色、火傷の跡、肌の色、い



中澤 英明 2001
「子供の顔 - ベコちゃん」
30×30cm
テンペラ・油彩・石膏地・寒冷紗・板



中澤 英明 2004
「子供の顔 - アーモンド」
45.4×38cm
テンペラ・油彩・白亜地・綿布・板



中澤 英明 2004
「子供の顔 - 風人 (ふうと)」
45.4×38cm
テンペラ・油彩・白亜地・綿布・板



中澤 英明 2004
「子供の顔 - オレンジのTシャツ」
45.4×38cm
テンペラ・油彩・白亜地・和紙・板
Photo by 福岡 栄



びつな肢体……、彼らの情景が、鮮やかな色彩とともに記憶に刻まれている。そして、こう付け加える。「当たり前前のごとがとても大事。このことを教えてくれた。日常の尊さ、みたいなことですね。彼らの一番の望みは、普通であることだと思ふんです」 初期の作品では、水頭症の子どもやみつくちの子どもが描かれた。そっくりそのままモデルとはなっていないが、記憶に残る彼らの一部がモチーフとなっているという。

ヤン・ファン・エイクの「ターバンの男の肖像」の複写を取り出した。



フレームにフラマン語で書かれている言葉がある。「英語で言えば“As I can.” 直訳すると“私ができるように”なんです、美術修復家の黒江光彦氏は“己の能う限り”と訳されました。自分が注げる、技術、愛情、時間……、持てる限りのすべてを注いでこの絵を描いたと、胸を張って

いる言葉なんです」 そうやって描かれた絵には、描かれているもの以上に伝わるものがあるという。「絵にとって大切な事は図柄ではなく、背後にあるものなんです。方便なんですよ、描くものは。見る人は、絵の向こう側にあるものが見たいんです」 絵は、描かれているものだけでなく、描いている人の思いや精神までもが伝わるもの。

作家が抱える、人間への関心、慈愛、温情、憐憫、痛み、悲しみ、生命への畏怖、尊厳……。絵の子どもたちに惹き付けられる理由が、少し見えた気がした。

2011年10月～2012年3月までの主な行事・イベントスケジュール ※予定は変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。

音楽学部

- 研究生特別演奏会
10月13日(木) 18:00開演予定
電気文化会館 ザ・コンサートホール
- オーケストラ 第29回定期演奏会
10月20日(木) 18:45開演予定
愛知県芸術劇場コンサートホール
- 第19回 ピアノの夕べ
11月10日(木) 17:30開演予定
電気文化会館 ザ・コンサートホール
- 音楽学部第34回 定期演奏会
11月17日(木) 18:00開演予定
三井住友海上しらかわホール
- 電子オルガンコース 第14回定期演奏会
12月8日(木) 19:00開演予定
熱田文化小劇場
- 第30回 室内楽の夕べ
12月9日(金) 18:00開演予定
熱田文化小劇場
- 冬期音楽講習会
12月24日(日)～27日(火)
本学東キャンパス
- 平成23年度 研究生修了演奏会
2月3日(金) 18:00開演予定
熱田文化小劇場
- 第10回 歌曲の夕べ
2月8日(水) 18:30開演予定
電気文化会館 ザ・コンサートホール
- 大学院音楽研究科特別演奏会
2月9日(木) 17:30開演予定
電気文化会館 ザ・コンサートホール
- 第16回 春のコンサート ピアノのしらべ
2月16日(木) 17:30開演予定
電気文化会館 ザ・コンサートホール
- オペラ公演「こうもり」
2月16日(木) 18:00開演予定
名古屋芸術創造センター
入場料/1000円(全自由席)
- オペラ公演「こうもり」
2月21日(火) 18:00開演予定
岡崎シビックセンターコロシアム
入場料/1000円(全自由席)

- アンサンブル・フィラルモニク・ア・ヴァン
第13回定期演奏会
2月17日(金) 18:15開演予定
長久手町文化の家 森のホール
入場料/1000円(全自由席)
- ルネッサンス 音楽企画
「オーケストラと映像のコラボレーション」
2月24日(金) 18:00開演予定
熱田文化小劇場
入場料/500円(全自由席)
- 第39回 卒業演奏会
3月1日(木)・2日(金) 18:00開演予定
三井住友海上しらかわホール
- 第14回 大学院音楽研究科修了演奏会
3月7日(水)～9日(金) 18:00開演予定
三井住友海上しらかわホール
- ルネッサンス 音楽企画2
「カレドスコープ2012 -音の万華鏡-」
3月11日(日) 13:00開演予定
愛知県芸術劇場小ホール
入場料/500円(全自由席)
- ルネッサンス 音楽企画3
「音とテクノロジーの地平線を求めて」
3月13日(火) 18:00開演予定
愛知県芸術劇場小ホール
入場料/3000円(全自由席)
- ミュージカル公演
3月15日(木)・16日(金) 18:30開演予定
名古屋芸術創造センター
入場料/1000円(全自由席)

美術学部 デザイン学部

- 「Hand Hospeace ; 医療と美術」展
10月14日(金)～10月19日(水)
本学西キャンパスA&Dセンター
- JAGDA サンデースクール
10月21日(金)～10月26日(水)
本学西キャンパスA&Dセンター
- 名古屋芸術大学大学院
洋画制作展 2011
10月28日(金)～11月2日(水)
本学西キャンパスA&Dセンター
- 「遭遇するドローイング ;
ハノーファー&名古屋2011」展
11月18日(金)～11月23日(水)
本学西キャンパスA&Dセンター

- 2011年度後期交換留学生作品展、
「幼稚園児たちのゲイジツ展」
12月2日(金)～12月7日(水)
本学西キャンパスA&Dセンター
- 美術学部コース展
1月13日(金)～1月18日(水)
本学西キャンパスA&Dセンター
- 「AFTER DENMARK ;
石田典子+伊藤里佳」
1月20日(金)～1月25日(水)
本学西キャンパスA&Dセンター
- 第39回 卒業制作展
2月21日(火)～2月26日(日)
名古屋市民ギャラリー矢田
愛知県美術館
本学西キャンパス
- 第16回 大学院修了制作展
2月28日(火)～3月4日(日)
名古屋市民ギャラリー矢田
- デザイン学部 レヴュー展
3月23日(金)～4月25日(水)
本学西キャンパスA&Dセンター

人間発達学部

- 2011年度 後期子育て支援事業
子育て・子育てワークショップ
10月5日(水)～11月19日(木)
本学東キャンパス11号館
- 芸大祭(全学同日開催)
10月27日(木)～29日(土)
本学東西両キャンパス

名古屋芸術大学保育・福祉専門学校

- 入学選考日
10月8日(土)・10月22日(土)・
11月12日(土)・11月26日(土)・
12月17日(土)・1月28日(土)・
2月18日(土)
- 進学相談会
10:00～12:00
10月29日(土)・11月19日(土)・
12月3日(土)・1月14日(土)・
2月4日(土)

附属クリエ幼稚園

- 運動会
10月15日(土)9:00～
大学 テニスコート
- 遠足
10月下旬予定 9:00～
観光バス利用
- 発表会
12月10日(土)9:30～
大学 音楽講堂
- クリスマス会
12月21日(水)10:30～
幼稚園
- 造形展
1月22日(日)9:30～
幼稚園
- 人形劇観劇
2月20日(月)10:30～
幼稚園
- お別れ会
3月13日(火)13:00～
幼稚園
- 卒園式
3月15日(木)10:00～
幼稚園

滝子幼稚園

- 運動会
10月16日(日)
- 秋の遠足
10月28日(金)
- 作品展
11月19日(土)・20日(日)
- クリスマスコンサート
12月18日(日)
- 餅つき
1月13日(金)
- 生活発表会
2月19日(日)
- 1日動物園(愛園会主催)
2月28日(火)
- 修了証書授与式
3月16日(金)

編集後記

大学は教育と研究が本来の使命ですが、最近では、地域社会の一員として、社会貢献の重要性も強調されてきています。特に、国際協力、公開講座、産学官連携などを通じて、より直接的な貢献も求められるようになってきており、こうした社会貢献の役割を、いわば大学の「第三の使命」としてとらえていく時代とも言えます。

本学は、今年4月に大学基準協会の認定評価を再取得しましたが、その際示された報告書の中で、「本学の長所として特筆すべき事項」として、「教育研究交流」と「社会貢献活動」が挙げられました。

こうしたことを踏まえ、今月は、本学の社会貢

献活動の中で、社会に開かれた大学を象徴する様々な活動を、広報企画部長にインタビューするかたちで特集してみました。スペースの関係ですべてを網羅することは出来ていませんが、主だったものをご紹介します。

ニュース&トピックスでは、本年前期に行われた恒例のオープンキャンパスや、公開講座などを取り上げました。

本誌へのお問合せやご意見は下記のメールアドレスまでお寄せください。

grouptu-shin@nua.ac.jp

大学基準協会の認定評価を再取得しました

本学は2011年4月に、大学基準協会の大学基準に適合と認定され、認定評価を再度取得しました。認定期間は、2011年4月から2018年3月までです。これにより、法令化されている「第三者による認定評価」にも合格したことになります。



表紙の写真

ナゴヤまちなかドアンサンブル 音楽プラザ会場の1シーン

発行:名古屋芸術大学
編集:全学広報誌編集委員会
制作:(株)クイックス
発行日:2011年10月10日

【お問い合わせ先】
名古屋芸術大学 広報企画部
〒481-8502
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地
電話 0568-24-0359
FAX 0568-24-0369
E-mail : grouptu-shin@nua.ac.jp